月 報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	2014 年 3 月 09 日 ３ 月 号

神の前に恥じ　1930 年代以降を思い起こそう　　Ｃ．Ｋ

今次の大戦に当たりては、宗教の自由は甚だしく圧迫せられ、我等の教会も歪められ真理は大胆に主張せられざりき。我等はこれを神の前に恥じ、国の為に憂ひたり。

上の文は、創立宣言の一節です。私達の信仰と生活はウエストミンスター信仰基準により、聖書がただ一つの基準であると教えています。そこには次の様に記されてます。『人間のおもな、最高の目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を全く喜ぶことである。』私達が神の栄光をあらわし、神を喜ぶことです。

ところが、８０数年前からの日本の歴史を紐解いて見ると、国の体制（当時、国体＝絶対的天皇主義）違いもありましたが、日本のキリスト教会は問答書一問に在る答と正反対の方向に傾き、偶像崇拝にまで墜ち 1945 年の悲惨な結果を招きました。当時は、国民に主権が無く、天皇に主権のある絶対的天皇主義制（国体と称していた）だったからでしょうか。人と人の関係（国と個人との関係も）相対的な関係です。

神様の言葉である聖書は、人の主な目的、生きる目的は、すべて神によってここに規定されています。個人と神様との絶対的関係で結ばれていることを示しています。しかし、今の風潮は、日本国があって初めて個人が在るとの考えが強くなっています。８０年前の亡霊が再び現れて来ました。

振り返って見ますと、悪名高き「治安維持法」が制定されたのは１９２５年のことでした。目的は、「国体の変革」を目的とする結社を取り止まる為と称し、革命を予防しようとして造られた法律でした。これが、数回にわたる改定が行われ歴史に見るような結果を招きました。

『信仰以外の事柄においては信徒の考えは多様であって、牧師や長老が特定の立場を取る事は信徒の自由を束縛しかねない。』と言う意見も教会の中にはあります。いわゆる、「牧会的配慮」といわれています。過去の教会がが陥った罠です。結果は、国民儀礼と称して宮城遥拝、神社参拝などを認め、「神様の栄光をあらわし、神を喜ぶことである。」から遠ざかりました。

平成の治安維持法・偶像保護法と呼ばれる「特定秘密保護法」等に現れた、神の栄光を軽んじ、踏みにじる動きには自分に与えられ仕方を地道に為し続けていく事、国の主権者である自覚を持ち、国の行く末に対し、自ら発言し、判断をし続けていく事、「不正義への否」が重要です。

教会学校教師について

立石章二

私たちの教会では、毎週士の日の礼拝の前に、子ども大足の教会学校が問かれています。これはキリスト教の伝統ではchurch school、略してＣＳと呼ばれます。しかし本来の教会学校とは、教会の教育活動のことで、すべての教会員がこの教育の対象となります。週日に行われる、大人を対象とした「読書合」「聖書の勉強会」も教会学校です。教会によっては主の日の礼拝前に、子どもの教会学校と平行して、または礼拝後に「教理学校」を開く教会が多くあります。私たちの教会ではまだこのような試みをしたことはありません。

これから私が述べる「教会学校」とは、子どもを対象にしたもので「日曜学校」とも呼びます。現在の教会学校スタッフは、牧師とＣ．Ｋ長老（校長）、Ｉ．Ｃさん、Ｔ．Ｇさん、Ｃ．Ｓ子さん。そしてＫ．Ｋさんに中高生礼拝の奏楽をお願いしています。昨年からＩ．Ｃさんが体調を崩して近くの厚木教会の礼拝に出席されることが多くなりました。それで小会では、それまでお手伝いしていてくださったＭ．Ｍ姉に加えて、Ｉ．Ｒさん、Ｎ．Ｓさんに教会学校教師になっていいだきました。またＫ．Ｓさんには、教会学校会計のお手伝いをお願いしています。

ここで二つのことが問題になります。一つはＣＳ教師の資格は何かということです。『教会規定』の「礼拝指針」は、「各個教会のすべての教育活動は、小会の管理の下に置かれ、牧師が指導する。また小会は、教材と教育活動が適当なプログラムに沿っていることを確認し、教育のための適切な働き人、施設と備品が備えられるように配慮する」（112 条）と定義した上で、「小会は日曜学校校長を選任する。校長は、牧師の同意を得て日曜学校教師を小会に推薦し、小会はこれを任命する。校長は、牧師の監督の下、教師とともに日曜学校を運営する」（114 条）、「日曜学校教師は、信仰歴、動機、人格、才能、教育的理想、キリスト者品性の向上と、授業の熟練への熱心などにもとづいて選任される。その働きのためには一一定の訓練が要求されるが、教会はその機会を備えるよう配慮する。　目聡判文教師はその務めの重要性をよく認識して、周到な準備をし、誠実に励行」（115 条）とあります。

つまり校長は小会が選任した上で「任命」し、「就任式」も行いますが、他の教師たちは「選任」されるだけです。つまりＣＳ教師の資格は小会が認めれば良いというごとになりますから、その時の小会の判断がすべてです。

しかしもう一つの問題は、礼拝説教と分級の「お話」は誰がどのように行うかということです。今まで私たちはニの説教の「資格」の問題をつきつめて考えてきませんでした。公的礼拝の説教は資格のある牧師しかできませんが（長老の場合は「奨励」）、ＣＳの「お話」は説教なのか、「話」なのか、ちゃんと定義してきませんでした。『教会規定』もこの点については

述べていません。小さな教会の場合は人的資源がありませんから、高校生のスタッフがお話しすることも珍しくありません。

教会学校も礼拝ですから、礼拝の中で行われる聖書の解説は「説教」であるはずですが、大人の礼拝の説教のように、その資格が厳しく問われることは伝統的にありませんでしたから、やはり「説教」というよりは「聖書のお話」というレベルで良いでしょう。皆様の家庭で行われる家庭礼拝でも、親が語る聖書のお話を「説教」とは言いません。教会員は誰でも子どもたちの前で「聖書のお話」をできるよう、自ら訓練するというのが本来の姿です。そのような教会員の中から、賜物を持った信徒を、小会は発掘し教育して教会学校教師となれるよう、指導していかねばなりません。どなたも、教会学校の教師の奉仕ができるよう、チャレンジしていただきたいと思います。

しかし、その「話」のレベルと内容については、よほどの注意が必要です。自分の子どもに話すだけではなく、教会に集う多くの子どもの前で話すのですから、そこには訓練が必要です。先日聞いた話では、K教会（現住陪餐会員 100 名を超える大きな教会）では教会学校教師は毎月説教訓律令を行い、互いに批評しあって研鑽を重ねているそうです。私たちの教会でも今後は教会学校の重要性もっと深く認識し、教師が学ぶ講習の機会を増やしていきたいと思います。

「聖書のお話」をする上でとりあえず教師に要求したいことは、[聖書から外れた話をしないこと]、「律法主義説教にならないこと」、「アルミニアン説教をしないこと」、「聖書の歴史背景を理解して話すこと」の４点ぐらいです。

「聖書から外れ話」とは、聖書が語っていないことを語ることで、これは基本的な注解書をよく読めば、この間違いをすることはありません。「律法主義的説教」とは、「あれをしてはいけない、これをしてはいけない」というのが話の中心になることです。「けんかをすると神様が怒りますよ。だから友達どうし仲良くしましょう」などいうのがこれにあたります。
「アルミニアン説教」とは、「良い子にならないと神様は救ってくれません」、「クリスチャンになるかどうかはあなたが自分で決めることです」という言い方だと思えば良いでしょう。これは行いによる教いであり、人間の自由意志を強調した考えで、聖書の福音ではありません。

「聖書の時代背景を理解して話すこと」は、聖書のストーリーの歴史背景、時代頓を間違えて話さないということです。「イエス様はソロモンが建てた神殿で説教なさいました」などとは、間違っても話してはいけません。バビロン抽囚で抽らわれていた人々が再建したのは第二神殿で、ソロモンが建てた第一神殿に比べるとみすぼらしいものでしたが、その後度重なる戦乱で荒廃しました。これをヘロデが修理、増築、拡張したのです。
教会学校教師養成の重要性を皆さんも認識していただきたいと思います。教会学校のさらなる充実と近隣への子ども伝道は、将来の教会の存立のための重要課題です。

イスラエルの旅について

Ｔ．Ｈ

私は、２０１４年２月１４日～２１日まで、イスラエル旅行に行ってきました。今回の旅は、去年９月にアメリカ縦断の旅のときにお世話になった教会の企画に参加させていただきました。この旅の計画は、去年の３月ぐらいにたてられたみたいです。参加人数は 14 名で、東京・横浜・名古屋・アメリカから参加されていました。

出発当日は、朝から雪が降っていて、夜になるにつれて多く量が増えるとのことで、離陸時刻がはやまりました。雪の影響で、新幹線に遅れがでたり、他の空港から飛行機が飛ばずに、１名の方かたどりつけず、次の便でくることになりました。航空会社は、トルコ航空で、イスタンブール経由でテルアビブ空港までです。飛行時間は、イスタンブールまでが 12 時間１５分、そこからテルアビブ空港までが２時間５分。日本との時差は７時間です。イスタンブール空港で、約３時間の滞在で、テルアビブ空港についたのは、深夜１２時前後でした。

そこから、ジェノバトと呼ばれる乗り会いバスに乗車して、エルサレム新市街にあるアブラハムホテルというところに向かい、そこで月白しました。次の日は、安息日で新市街のお店がほぼ閉店していて、交通機関も勤いてはいなく、人通りも少なく、廃墟のようでした。新市街からヤッフォ門という門から旧市街へと入り、次の宿泊先のエッケホモコンペントという名前のエッケホモ教会の宿泊施設に泊まりました。（エッケ･ホモとはラテン語で「この人を見よ」の意味。ピラトのせりふ。ヨハネ 19:5）。今回の旅は、ここを拠点として、レンタカーで聖書に記述されているところを巡る旅でした。大体一周はしたと思います。

訪問した主なところは、エルサレムの新・旧市街、ガリラヤ湖両辺、死海とクムラン、地中海沿岸、ネゲブ他方です。すべてが印象的でしたが、やはりエルサレム新・旧市街は、異文化の街であり、カルチャーショックの連続で、今のイスラエルが抱える問題の縮図のような街でした。

私は、イスラエルに行きたいと思い、いつか行けたらいいなと願っていました。思い起こせば、私が横浜中央教会へ通うようになった当初、平日午前の婦人会に参加していたときのことです。写真と地図を使って、昨日のことのように聖書の話を牧師と婦人の方たちがしているのをきいたときから、興味をいだくようになりました。いろいろな理由からなかなか行くことが難しいイスラエルですが、今回主に導かれて訪れることができて良かったです。

１週間の旅でしたが、見たりきいたり体験したことは、いろいろありこれからの聖書の理解に役立ちそうです。いろいろな教会へ行きましたが、やっぱり、聖霊に導かれて所属することになった自分の教会が一番だなとしみじみと思いました。

Ｔ・Ｓ夫妻へのインタビュー（聞き手：立石章三）

・Ｔさんは地元出身でしたね？
Ｔ：そうです。小学校はＭ小学校、中学校はＭ中ですから、浜っ子どころか保土ケ谷っ子です。横浜中央教会のこの辺りは私の通学路でしたから、良く知っています。音は教会の斜め前には映画館がありました（現在は１階がマクロ丼屋、２階が子ども英語教室）。パチンコ屋もあり、にぎやかな商店街でしたが、今はさびれてしまいましたね。

・Ｓさんは韓国生まれですが、どういういきさつで日本に来られ、Ｔさんと結婚されることになったのですか？　洗礼を受けられたのは韓国でしたか？
Ｓ：韓国ではメソディスト教会に行っていましたが、洗礼を受けるには至りませんでした。１６歳の時に日本人の養父のもとに、養女になって日本に来ました。それからいろいろあって養女関係は解消し、つらいこともたくさん経験しました。洗礼は横浜の伊勢佐木町にあった、韓国人教会の恵（ウネ）教会で受洗しました。この教会はその後車神奈川に引っ越したのですが、その後解散してしまいました。私はその後関内の横浜栄光教会に移りました。

・お二人の出会いと結婚、Ｔさんの洗礼はいつごろでしたか？
Ｓ：二人の共通の知人を通して二人は出会い、私の通っていた廃兵栄光教会の礼拝に主人も出席するようになりました。結婚したのは 2004 年 11 月です。
Ｔ：礼拝説教は韓国語で、韓国人が日本語で通訳していましたが、正直言ってほとんど分かりませんでした。この教会で結婚式を挙げましたから、その縁でこの教会の礼拝に通っている内に洗礼を勧められ、特に抵抗もなく洗礼を受けました。今から思うと、神様も聖書もほとんど理解していませんでしたが、徐と結婚したこともあって、何となく洗礼を受けたような気がします。

・横浜栄光教会というのはどんな教会でしたか？
Ｓ：関内にあるビルの１フロアを借りていました。韓国人が９割で日本人が１割ぐらいの構成だったと思います。毎週大体 50 人以上が集まっていたと思います。

・横浜中央教会の礼拝に初めて来られたのは 2009 年のクリスマスでしたね？
Ｔ・Ｓ：そうです。2009 年９月に川辺町に引っ越して来て、教会を探してあちこち行きました。

した。某教会にも行きましたが、私たちが見ても異様な雰囲気でした。
横浜中央教会には歩いて通えたし外観の雰囲気が良かったので来ました。

・今までの教会とはずいぶん雰囲気が違ったのではないですか？
Ｓ：こちらはずいぶん静かな教会だと思いました。横浜栄光教会では大きな声で賛美しますし、お祈りは手をたたいて大声で叫びます。涙を流しながら祈る人も多く、とても熱い教会です。説教は毎回、聖書のあちこちからのお話でしたが（主題説教）、こちらの説教は聖書の連続講解で分かりやすかったです。
Ｔ：私もこちらで説教を聞いてから、自分で聖書を読む気になりました。それまでは自分で聖書を読む習慣はありませんでした。今は、求道心というのでしょうか、神様を信じたいという思いが強いです。
Ｓ：こちらの教会に来るようになってから、主人はずいぶん変わりました。信仰の成長が目に見える形で表れてきたと思います。

・横浜中央教会へ籍を移そうと思われた理由は何ですか？
Ｔ：信仰生活をちゃんとやり直そうと思ったからです。今までもこれからも、韓国と日本を行ったり来たりという生活が続くと思います。 2009 年のクリスマスに来てから、色々なことがあって、礼拝出席も中断していた頃がありましたが、立石牧師に３回ほど家庭集会をしていただいたこともあって、これからは自分の信仰を成長させたいと思うようになりました。
Ｓ：私は老後は韓国に帰るつもりですが、立石牧師の説教を聞くことによって、信仰が成長したと思います。ｨ可より毎日聖書を読む習慣ができましたので、これからもこの教会で指導していただきたいと願っています。立石牧師夫妻が 2012 年に済州島にある私のマンションに来てくださって、一週間楽しく過ごすことが惣きました。ずっと親しくしていただいた立石牧師夫妻は、私にとってアボジとオンマ、横浜中央教会は私たちにとって大切な教会です。

・最後に、お二人の好きな聖句は何でしょうか？
Ｓ：「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリストにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」（Ｉテサロニケ 5:16－18）
Ｔ：「恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」（イザヤ書 41 ： 10）

・ありがとうございました。　（ご夫妻は 2013 年クリスマスに加入されました）